



手賀沼が海だったころ

手賀沼沿岸地域の人々の暮らしと現代

1. 手賀沼沿岸の昔の生活

さる2014年4月27日(日)、当会は「手賀沼地域の農業・漁業と人々の暮らし」一副題：洪水と農業、漁業史と漁業、ウナギ、行商というテーマで、相原正義氏（北海道教育大元教授、中央学院大講師）を講師とした講演会を柏中央公民館 5F 講堂にて行いました。以前も相原先生には、手賀沼沿岸地域の古代から現代にいたる歴史について講演して頂いたことがあります。今回は、特に地域の人々の生活という側面から手賀沼地域の農漁業や生活についての講演をお願いしました。今回の講演では、導入部分として、ウナギ道についてのお話にはじまって、手賀沼流域の農業、手賀沼の漁業史、手賀沼に生息した魚種、手賀沼ウナギ、行商について、詳しい地図なども参照しながら講演して頂きました。



<講演する相原正義先生>

手賀沼のウナギは有名ですが、ウナギ道は手賀沼で揚がったものというよりは、利根川沿いの布施河岸から、霞ヶ浦・利根川下流のウナギを陸揚げし、馬の荷として加村（流山）まで運んだ経路で、加村からは江戸川で江戸まで運んだとのこと。

また、手賀沼沿岸の水田は狭く、沼縁低地の新田は、洪水の被害が絶えなかったようで、水田のかさ上げのために沼から船で泥を田まで運ぶ泥こぎや、稲刈りの時期に水没した田の水中稲刈りなど、今では考えられません。

2. 手賀沼の漁業

手賀沼は古くから漁業が盛んでしたが、漁業権をめぐる手賀沼沿岸の村同士の争いから、江戸時代には、元禄15年(1702)の「手賀沼入会漁獵裁許状」（従来から排他的漁業権を主張した手賀村・片山村・布瀬村に対して、他の村が漁業権を主張して、11ヶ村の入会漁業権が認められた裁許状）などの文献資料もあります。

ところで手賀沼には 1953年調査魚種など 29 種もの魚が生息していたそうです。



<クチボソ (モツゴ)>

スズキ、ライギョ、ヘラブナ、ナマズ、サヨリ、テナガエビ、モクゾウガニ、タナゴ、食用ガエル、ワカサギ、イシガメ、ブルーギル、コイ、クチボソ、ウナギ、ブラックバス・・・最近では外来種も増えているようですが、元々はウナギなどの魚がさかんでした。

ウナギ漁はドゥという竹で組んだ仕掛けによるものやウナギ鎌という特殊な鎌

で引っかけるやり方など、様々でした。



<ウナギ鎌漁の様子>

我孫子市HPより

(原画：深山正巳氏)

3. 手賀沼沿岸の史跡めぐり

当会は以前「手賀の歴史散歩」と称して、柏市手賀・片山・下柳戸をめぐる、手賀城跡、旧ハリストス教会、北ノ作古墳、兵主神社、原氏墓所、六所神社などを見学しました。古代の古墳から、近現代の教会まで、一つの地域をみても連綿と続く歴史があります。また地域に住む人の日々の暮らしが、そのベースにあり、それを知ることは地域の成り立ちを理解する上で不可欠といえるでしょう。

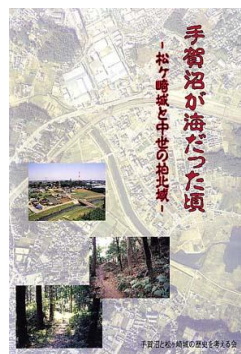
15周年記念行事のお知らせ

現在、当会設立15周年を記念した行事を以下の通りに開催する予定であります。また、当会の歴史を知ることのできる記念会誌を、11月9日に行われる記念講演会の会場にて配布予定です。ぜひご参加ください。

●当会創立15周年記念講演会
日 時：11月9日(日) 講演：13時～10時から展示等を行います
場 所：柏市・勤労会館 会議室 柏市柏下66-1
講演1：「松ヶ崎城の性格を考える」
講 師：間宮正光氏(県文化財保護指導委員)、
もうお一方研究者に講演して頂く予定
その他、お楽しみイベントも?
参加費：500円(会誌代込)

●松ヶ崎城お城祭り
日 時：11月16日(日) 10時～
場 所：松ヶ崎城跡 柏市松ヶ崎457-1
内 容：城跡見学会、音楽演奏、他

柏の歴史遺産 松ヶ崎城跡保存の過去、現在、未来



＜松ヶ崎城に関するシンポジウム（1999年）＞



＜現在の松ヶ崎城（左）、当会が出版した書籍『手賀沼が海だった頃』（右）＞

1. 遺跡が物語る城の歴史

松ヶ崎城は、首都圏では珍しく遺構がよく残った城跡ですが、他の中世城郭の多くと同様に、この城に関する古文書の類がないようで、文書で築城時期や城主などの情報を知ることができません。中世の城跡で、文書に書かれているものは少なく、文書等で城主が判明している下総の中世城郭は本佐倉城、臼井城、小金城（後期）など僅かです。金石文から分かる例もありますが、珍しい例では、船橋市の夏見城については、城跡に現在建っている長福寺の本尊仏像の胎内墨書銘から城主らしき人物が判明しています。その胎内墨書銘には、「夏見豊島勘解由左衛門尉平朝臣胤定」とあり、豊島氏といえば布川にもいましたが、今の東京の石神井公園の場所にあった石神井城の城主が豊島氏でその名乗りに「勘解由左衛門尉」というのがあり、一説では石神井の豊島氏宗家の流れではないとも言われます。

それはともかくとして、古文

書や記録がなくても、遺跡、遺物の現物は雄弁に語ってくれます。松ヶ崎城に残る遺構は明らかに戦国時代初期のもので、発掘で出土した常滑焼の甕が15世紀終わりから16世紀の初めのものであったことから、松ヶ崎城は1500年前後の戦国時代初期に機能していた城であることが分かっています。



＜かつての西側虎口＞

その時代の城跡が比較的保存状態良く残っているだけでも貴重だと思うのですが、そもそも松ヶ崎城とはどんな城でしょうか。松ヶ崎城は、柏市松ヶ崎字腰巻にあった中世城郭であり、JR北柏駅を北西に500mほどいった、北緯35度52分44秒、東

経139度58分55秒の地点にある舌状台地（標高17～18m、比高10数m）の先端にあります。城域は主要部分は東西約250m×南北約200m、全体では約300m四方がありますので、中規模の城と言っていいいでしょう。土塁は北西面で約50mの長さ、主な郭（くるわ）が2つだけの簡単な作りです。虎口（こぐち）は3つ、東側虎口に門跡がみつかったもので、東側が大手口（表玄関）だったと推定されます。台地続きの西側ではなく、東に大手口があったことは、手賀沼から城跡の北側にあったという船着場を経由して出入りしていたことを示すと考えられます。時代としては、前述のように、戦国時代初期（15世紀終りから16世紀初）に機能していた城です。後で述べますが、平成11年（1999）に当会が発足する以前から、この城跡の保存運動はあり、平成14年（2002）、15年（2003）の柏市による城跡の発掘調査を経て、「手賀沼沿岸、柏北域の法華坊、中馬場遺跡、根戸城などとあわ

せて中世を探るカギとなる遺跡」として、平成16年(2004)7月には柏市指定文化財となっています。

2. 松ヶ崎城の研究と保存の歴史

地元では松ヶ崎城跡が城跡であることは、古くから知られていた模様で、それは「城山」という地名や古老の話から分かります。そして城跡のある台地はほぼ改変されることなく、代々の地主によって保全されてきました。

しかし、長い間城郭の研究などで、この城が取り上げられることはなく、昭和49年(1974)に佐藤立身氏が柏の文化財と自然を守る会の会報『郷土と自然25号』で松ヶ崎城を取り上げたのが初めようです。その翌年の昭和50年(1975)、城跡のある台地を縦断する都市計画道路の計画に対し、市民から城跡の保全を求める陳情が出され、現在の台地沿いの道路となって城跡は保存されました。

昭和57年(1982)柏市教育委員会による遺跡分布調査、翌昭和58年(1983)『柏の遺跡—柏市埋蔵文化財分布地図—』の発行があり、松ヶ崎城跡が学術調査の対象になってきました。一方、同じ時期に、森田洋平氏が「松ヶ崎城の築城は匠瑳氏による」と「匠瑳氏の動向」『我孫子市史研究7』(1983)で発表しています。

本格研究が進み始め、佐脇敬一郎氏、松ヶ崎城を手賀沼沿岸の「水辺の城」と位置付け、水運との関わりに言及し、佐脇氏の松ヶ崎城跡の縄張り図は平成5年(1993)作成され、平成9年(1997)『柏

市史』に掲載されました。また、平成7年(1995)に千葉県が『千葉県所在中近世城館詳細分布報告書～下総地域』で松ヶ崎城の構造を紹介しましたが、石田守一氏が縄張り図と共に報告しています。

平成11年(1999)に松ヶ崎城のシンポジウムを開催した市民有志が当会を結成、以降当会は書籍『手賀沼が海だった頃』、ビデオ『柏の歴史遺産 松ヶ崎城址』、DVD『柏の歴史遺産 松ヶ崎城跡』等を制作、紹介しています。

平成14年(2002)6月に当会は柏市長に保存の要請書を提出。引続き「松ヶ崎城址及び周辺森林の保存のお願い」の署名を集め、平成15年(2003)2月には柏市議会に請願し、採択されています。一方、柏市教育委員会は平成14年(2002)、平成15年(2003)年の2回の発掘確認調査を行い、その結果を受け、平成16年(2004)7月には松ヶ崎城跡は柏市文化財に指定されました。



<不動尊跡にて>

その時の柏市文化財保護委員会のコメントの一部を抜粋します。

「柏市教育委員会の二度にわたる発掘調査(確認調査)により指定文化財とすることに足る資料が得られたことと共に、近年の周辺遺跡研究成果が、中世における松ヶ崎城跡周辺地域の重要性を高

めたことを受け、本件を指定に足る文化財と判断したものである。

利根川下流域には『香取の海』にかかわる文献資料が残るものの、手賀沼周辺にはほとんど残っていない状況の中、当時の戦国の様相を良好に留める松ヶ崎城跡の歴史的・学問的な価値は高く、消滅した他の城館との比較研究の対象ともなり得るであろう。今後、文献史学・考古学などの各方面からの中世城館研究が進んでいく上で、重要な役割が期待できる。

なお、今後は今回の答申範囲に限らず城域全体で長く保存が図られ、中世城跡を視覚的・立体的に捉えられる場として後世へ伝えて行くと共に、広く活用が図られる事を期待する。

このことは、市街化された住宅地に残る『歴史と緑の空間』という地域のシンボリックな存在として、住民意識の高揚と郷土の理解に大いに資するものと考えます。近年注目を集めている『市民との協働』という観点からも検討いただければ幸いです。」

その後の経過は、皆さんご存知の通りです。



<シンボルツリーの植樹>

柏ロータリークラブとタイアップした植樹については、柏ロータリークラブによる植樹自体は平成22年(2010)2月11日に、台地上、

こぶし、山もみじ、桃、河津桜など広葉樹70本をボーイスカウトの協力によって植樹、当会が音頭をとり市民から基金を募集した、市民による樹木里親による植樹は、同年3月1日に実施し、台地中段から斜面にかけて、河津桜50本を植樹しましたが、その後も平成24年(2012)までに台地中段にシンボルツリーとして桂の木を1本、河津桜3本を植樹しています。

そして、松ヶ崎城祭り、「松ヶ崎城を発信せよ!」の活動など、地味かもしれませんが地域の人たちとともに、保存の活動は進んできたと思います。

3. 次世代に繋ぐ城跡の保存

当会は2年前に「松ヶ崎城を発信せよ!」と銘打って紹介用DVDを制作したり、震災で中段していた松ヶ崎城祭りを復活させました。しかし、まだ柏市民でも松ヶ崎城を皆知っているという状態ではありません。会の活動として、一人でも多くの人に、松ヶ崎城を知っていただく、城跡に来ていただく、遺構や自然を見ていただくという活動を継続していきます。城跡をどう残すかといえば、現状のまま、自然な状態で残すということになるかと思えます。その際の観点として、①遺構の保存、②自然環境の保存ということがあります。

①遺構の保存

- ✓首都圏では数少ない遺構がよく保存された中世城郭
- ✓そのままの形で保存(無理に復元しない、付加しない)

- ✓一方、見学用には通路、看板を設置

②自然環境の保存

- ✓斜面林を含めた城跡の緑を残す
- ✓希少植物等の保護
- ✓大堀川と一体に自然観察の場

柏市によって、草刈、木道の設置など、各種整備がされ、以前と比べると城跡も歩きやすくなっています。思えば、5年程前も倒木を処理したり、草刈などもしていましたが、希少植物の保護も含めて、今後も整備を続けていかねばなりません。

看板は城跡内部に入ると市が設置した案内用のものがありますし、柏自然ウォッチャーズの人たちと一緒に設置した植物についての看板がありますが、外から城跡であることを示すものを設置する必要があるのではないかと思います。そういう直接的な整備などハード面と城跡のアピールというソフト面の両面から活動を継続していかねばなりません。

先人が代々保存してくれたように、次世代の人々に、歴史的な遺産と自然環境をつなぐことが、我々の責務と考えます。



<松ヶ崎城祭り(2009)>

編集部より

会が設立されたのは、1999年9月26日の事だそうです。当初は会員数10名ほどの会だったそうですが、2014年9月現在は約70名が在籍しています。

これまで、会からのお知らせが中心だった会報ですが、ぜひ会員の皆様からも会への要望やご自身の歴史研究の発表の場として、誌面をご活用いただけたらと思っております。

今後は下記の要領で、次号の発行予定をお知らせするとともに、皆様からの投稿を募集いたしますので、ぜひご投稿ください。お待ちしております。

次の会報発行予定

12月28日(日)

原稿締め切り

11月30日(日)

原稿内容

研究論文、紀行文、エッセイ、小説、写真、イラスト、なんでもOKです。字数の制限もありませんが、会報の1ページには約1700字入りますので、それを目安にしてください。

手賀沼が海だったころ

HPもどうぞ⇒ <http://www.matsugasaki.jo.net/>

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報 第27号 2014.9.28

発行人: 森伸之 編集人: 藤田理恵子

年会費2千円 振込先: 千葉銀行 柏支店 口座番号3461475